

第 7 号 恵那南地区中学校あり方検討委員会だより

http://www.city.ena.lg.jp/shisei/administration/committee/enaminami_arikata/

平成27年3月16日発行
恵那市教育委員会 学校再編対策室

第9回あり方検討委員会

平成27年2月19日(木) 岩村振興事務所

◇議題

- ・開会のあいさつ
- ・市民説明会状況報告について
- ・提言書（再修正案）について
- ・「恵那南地区中学校再編検討委員会（仮称）」（案）の発足について
- ・教育委員会への提言について
- ・その他

◇第9回の概要について

第9回では、市民説明会（明智町会場及び岩村町会場）の開催状況について報告しました。

また、第8回で出た意見を反映した提言書の再修正案について内容確認を行いました。今回も前回同様、全体会方式をとり、最終確認を行いました。

◇提言書(再修正案)について

提言書について、1つ1つ確認をしました。委員からは、文の構成や文言について加除修正の意見が出され、あり方検討委員会の想いがこもった提言書が完成しました。



【第9回全体会議の様子】

◇「恵那南地区中学校再編検討委員会（仮称）」発足について

今後も継続して検討を行う必要があることから、平成27年度は「恵那南地区中学校再編検討委員会（仮称）」を発足することとなりました。

【教育委員会への提言について】

恵那南地区中学校あり方検討委員会設置要綱第2条（「委員会は、恵那南地区中学校のあり方について協議し、教育委員会に提言するものとする。」）に従って提言することとなりました。

教育委員会への提言書の提出については、平成27年3月6日(金)に行われました。



【提言書提出の様子】

「提言書」の内容について(概要)

- 1 提言
 - (1) 恵那南地区中学校の適正配置条件について
 - (2) 学校の統合について
- 2 提言の理由
 - (1) 恵那南地区中学校の現状
 - (2) 目指したい教育環境
 - (3) 地域住民の意識
 - (4) 今後の課題
- 3 あり方検討委員会の活動経緯
 - (1) 協議内容
 - (2) 委員からの意見
- 4 参考資料
- 5 おわりに

※ この「たより」は、あり方検討委員会の動きをみなさんに広くお知らせしていくものです。

恵那南地区中学校のあり方に関する

提言書（一部抜粋）

標記の件について、平成26年6月6日に教育委員会から当委員会が依頼を受けた2つの項目について、当委員会の検討経過を添えて下記のとおり報告いたします。

記

1 提言

(1) 恵那南地区中学校の適正配置条件について

当地区の5つの中学校は、いずれも生徒数が激減しており、この傾向は今後更に加速することが予測される。したがって、早急に改善を図る必要がある。

中学校3年間においては、学習や部活動等の諸活動を通して人間形成を図るうえで極めて重要な時期であることから、ある程度の集団の中で切磋琢磨することが必要な条件である。

(2) 学校の統合について

現状を鑑みると、減少傾向にみられる恵那南地区の将来の出生数から5つの中学校を1校に統合し、各地区の平等性を考えた位置に新設することが望ましい。

この統合を進めていくうえで、当該地区の住民や保護者への理解を得る必要があることから、次年度以降は「恵那南地区中学校再編検討委員会（仮称）」を発足し、早期に統合の時期・場所・通学方法等について調査研究、協議を行うとともに、当該地区住民への説明と意見聴取を図る必要がある。また、今後発足される委員会での協議方法としては、専門的な知識を必要とすることから、教育委員会の提案を基にした協議が望まれる。

5 おわりに

恵那南地区中学校あり方検討委員会では、提言書を報告するまで9回の委員会を開催し、協議を行いました。委員会の中では統合に対して、「慎

重に協議したらどうか。」「早期に統合した方が良い。」「統合に替わる改善策はないか。」等の意見がありましたが、提言書に示す「恵那南地区中学校の適正配置条件」「学校の統合」については、本委員会委員の合意を示した内容となっています。

なお、この提言書には記されていない各委員のこれまでの意見や会議録等を附帯資料として添付します。

あとがき

昭和の終わりの頃、私は山岡小学校でお世話になっておりました。あの頃は、1学級の定員が45名でしたので、1学年が2～3学級、およそ100名程度の児童数でした。先輩教師からは、「子どもは子ども社会の中で育つ。沢山の体験を通して人格が形成される。だから大勢の仲間が居た方がいい。」と教えられ、“まめ学校”という地域毎の縦割り集団での活動に象徴されるような教育活動がなされていました。その中で「大きい子は小さい子を教え可愛がり、小さい子は大きい子にあこがれ見習う」というような関係が自然にできていました。

平成26年度2月末までに、山岡町内で生まれたお子さんはわずか10名です。恵南地区全体でも67名と少子化が深刻です。国が示す小中学校1校の標準学級数（＝最も教育効果が期待できる規模）は12～18学級ですが、当市においては、これを満たす学校は小学校3/14校、中学校2/8校だけです。各校区の広い当市の状況では、小学校では、本年度実現した吉田小学校と明智小学校の統合以降は、しばらく見合わせる事が適当であると考えています。しかし、中学生期は一生の中で最も多感で吸収力を持つ時期であり、教科学習、部活動等、多くの仲間の中で互いに切磋琢磨して、自己を鍛えてほしいと考えています。また自分自身を振り返っても中高生の時期の仲間は一生の友達であることを思うと、次の世代に、恵那南地区が一つのコミュニティーとして発展するためにも中学校の統合にご理解をいただきたいと存じます。（教育長 大畑雅幸）

※ この「たより」は、あり方検討委員会の動きをみなさんに広くお知らせしていくものです。